

第36回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「文化財の微生物劣化とその対策：屋外・屋内環境、及び被災文化財の 微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック」(④必修11-12-1/1)

屋外・屋内の環境を問わず、微生物は文化財にとっての大きな劣化要因として多大な被害を与えている。東日本大震災における経験は記憶に新しいところであるが、とくに地震・津波などによって被災した文化財については水濡れなどの影響から、微生物劣化が短期間のうちにおきやすく、その状況をみきわめるための調査と対策がきわめて重要となっている。保存修復科学センターでは、標記の国際研究集会シンポジウムを開催した。15件の招待講演のほか、国内外から23件のポスター発表が行われ、活発な議論が行われた。参加者へのアンケート調査では、「とても有意義」61%（実数53/87）、「有意義」37%（実数32/87）、「妥当」2%（実数2/87）、「物足りなかった」0%（実数0/87）、という結果であり、回答者の過半数が満足感をえたことがわかった。

日程：2012（平成24）年12月5日（水）～7日（金）、会場：東京国立博物館平成館大講堂

参加者数：参加者数232名（うち外国からの参加者は講演者、参加者20名）、3日間のべ参加者数421名

【セッション1】基調講演：座長・石崎武志（東京文化財研究所）

ピエロ・ティアノ（文化遺産保存研究所、イタリア）

「石造文化財の生物劣化の特徴と問題点、および劣化の程度と処置を決定するための診断法に関する最近のトピックスについて」

ジュヌビエーブ・オリアル（歴史記念物研究所、フランス）

「文化財の生物劣化の調査方法の概要と予防措置および最近のトピックスについて」

【セッション2】東日本大震災で津波に被災した文化財の微生物被害とその対策：

座長・岡田健（東京文化財研究所）

建石徹（文化庁）「東日本大震災における地震、津波による文化財への影響について（概要）」

木川りか（東京文化財研究所）「津波で被災した文化財の微生物被害と殺菌燻蒸処理上の問題点」

佐藤嘉則（東京文化財研究所）「津波で被災した紙質文化財の生物劣化に関わる微生物群の調査」

【セッション3】石造文化財の着生生物による劣化とその対策：座長・犬塚将英（東京文化財研究所）

朽津信明（東京文化財研究所）「石造文化財の着生生物による劣化と環境」

森井順之（東京文化財研究所）「石造文化財着生生物のクリーニングについて」

【セッション4】石造文化財の微生物劣化とその対策：座長・高妻洋成（奈良文化財研究所）

片山葉子（東京農工大学）「カンボジアのアンコール遺跡における石材の微生物劣化について」

顧繼東（香港大学、中国）

「石材の保存に使用される高分子化合物の微生物劣化／分解と殺菌剤の使用にかかわる問題点」

【セッション5】木材腐朽菌による生物劣化の調査と対応：座長・三浦定俊（文化財虫害研究所）

フェイスル・ブースタ（歴史記念物研究所、フランス）

「歴史的建造物の木材腐朽に関わる要因：同定、処置と予防対策」

藤井義久（京都大学）「非破壊調査法などによる日本の歴史的建造物の生物劣化調査」

杉山智昭（北海道開拓記念館）「遺伝子解析による歴史的木造建築物の腐朽調査」

【セッション6】屋内環境におけるカビの問題と調査手法：

座長・佐野千絵（東京文化財研究所）、神庭信幸（東京国立博物館）

高鳥浩介（東京農業大学）「文化財保存施設における浮遊菌の調査手法」

ウィブケ・ノイゲバウアー（デルナー研究所、ドイツ）

「DNAチップによる美術品のカビの迅速同定法の開発」

トム・ストラング（カナダ保存研究所、カナダ）

「文化財に対するカビのリスク：害になる環境条件や潜在的な被害の可能性を規定する上での問題点について」

【総合討議】座長・顧繼東、木川りか